

「災害時の不安」

車いすを利用し、生活全般に介助が必要であるため、自分の身を守ることができません。停電、家屋の倒壊、火災、地域的に津波が心配であり、就寝時であればなおさら恐怖感が増します。

避難場所の小学校に行くにも通路の確保が必要であり、移動は困難と予想され、また避難所での生活を考えると、多少の倒壊であれば自宅に留まるつもりです。しかし、津波の場合は避難の必要があり、最寄りの高層マンションへ避難ができればと考えていますが、可能かどうか分かりません。

「地域とのつながり」

地域とのつながりの必要性は常日頃強く感じていますが、隣近所であっても挨拶を交わす程度が殆どではないでしょうか。ノーマライゼーションプランの意見具申にも携わらせていただいた中で、各地域で要援護者を交えた防災訓練を行い、避難方法を経験してもらうことが必要ではないかということを提案しました。障害者が単独で地域の防災訓練へ参加することは難しいため、各地域の民生委員をはじめ、区自立支援協議会に関わっている、障害者・高齢者とのつながりがある方々が中心となり、町内会の合同避難訓練の実施等の橋渡しをお願いしたいと思っています。

数年前の就寝時に隣家で火災があり、近所の方の知らせで気づき、家族の対応で助かりましたが、独居だったらどうなっていたことか。家族同居であっても災害時は不安なので、独居の方の恐怖感ははかりしれません。

災害時は健常者だって大変だと言われますが、障害者はそれ以上に大変だということを理解していただき、家族の安否確認後には近所の要援護者の安否確認をして頂けるような関係づくりを進めていきたいと思っています。

## プロフィール

北島さとみ

- 川崎区在住
- 1982年 交通事故により車いすの生活となる（頸髄損傷による四肢麻痺）
- ホームヘルパーと家族による介護を受けている
- NPO法人ウィンドウ 理事長 地域活動支援センター手作り工房を運営

（所属している団体）

- NPO法人川崎市重度身体障害者の会 理事
- （公社）全脊連神奈川支部川崎協会 ほか